

B & W 新聞

栃木県農業大学校ホルスタイン共進会愛好会

発行者
ホルスタイン共進会
愛好会会長
田澤 美里

いつもの共進会よりも緊張感が増していました。

1頭1頭肋がよく出ていて、また成牛は乳頭の位置や乳房の張りが良く、最高のコンディションで審査されているように感じました。

齋藤 愛望



今年は十年ぶりに、「第十四回全日本ホルスタイン共進会北海道大会」が、平成二十七年十月二十四日(土)～二十五日(日)の二日間にわたって酪農の盛んな北海道で開催されます。それに先立ち、栃木県を代表する出品牛を決める予選会が、九月十八日那須家畜市場で行われたことから、愛好会の活動として見学に行ってきました。また、一カ月間の農家派遣実習先の出品牛を愛好会の会員である枝美咲さん(畜産経営学科一年)が引きました。愛好会会員がこの共進会で、それぞれ感じたことや思ったことをまとめました。

会場での第一印象は、出品牛がとてもきれいで体型が一般的な乳牛と比べて明らかに違いました。日頃の飼養管理の他に、調教や牛洗いなどの管理を怠らず、予選会に向けて努力した結果なんだと感じました。

研修先の農家の方が、予選会に出品することで1頭引かせていただきました。当日、私が担当した牛は落ち着きがなく暴れてしまいました。そこに駆けつけた農家の方が、暴れていた牛を落ち着かせて引いていたので凄いなと思いました。

いつか私も、共進会に出品している農家の方々のように牛の管理や、引くコツがわかる人になりたいです。

枝 美咲

全共に牛を出すための予選会ということもあり、かなりレベルの高い牛が揃い、出品者からも緊張感が溢れていました。

リードマンの方々は年齢性別問わず、一生懸命に引いている姿は、とても格好良く見えました。

また、牛の体の大きさ、乳房、毛並み、肋、全てにおいて素晴らしい牛ばかりでした。

いつか私もあの緊張感を味わいたいです。

磯 愛美



農家さんの牛を引く、
枝美咲さん←